

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700121		
法人名	株式会社 ユニマツ リタイアメント・コミュニティ そよ風		
事業所名	天神川ケアセンターそよ風(東)		
所在地	京都市右京区西院西田町61番地		
自己評価作成日	令和2年1月5日	評価結果市町村受理日	令和2年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JikvsoCd=2690700121-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	令和2年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天神川の桜並木を窓から眺めながら入居者様と食事を楽しみ、自分らしく生活していただけるよう寄り添い支援できるよう努めています。家族様との信頼関係を築き、共に協力し合い「そよ風でよかった。」と言っていただけるようスタッフ一同頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは町会長の協力を得て地域と良好な関係にあり、敬老会やお花見会に参加したり、婦人会の配食の提供を受けています。また防災時にはホームを地域の一時避難場所に申し出る等、協力体制を築いています。職員教育にも力を入れており、毎月の研修では職員が持ち回りで講師を担い事前の資料作りも行っており、身体拘束委員会を毎月開催することで現状を把握し、問題となる事例があれば職員間で検討するなど、意見や発表の機会を確保しています。食事は利用者に希望を聞きながら職員が献立を決めて調理し、利用者と一緒に調理や盛り付け、後片付け等を行い、同じ食卓に付いて会話を楽しみながら食事を摂っています。職員は利用者がその人らしく穏やかに過ごせるよう、またこれまでの生活歴や趣味などが継続できるように利用者の意思を大切に支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有して実践につなげています。	法人の理念のもと、職員で話し合いホームの理念を作成し掲示しています。時には理念を見直し現状に即したのものになっているかを確認しています。特に利用者の入居時にはその人らしさを知ることにより努め理念に立ち返り穏やかに過ごせるよう支援しています。また、したいことや食べたい物など、利用者の意思を大切に支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来る限る交流しています。	自治会に加入し、町会長の協力を得て良好な地域関係を築いています。回覧板や運営推進会議で情報を得て敬老会やお花見会に参加したり、婦人会の配食の提供を受けています。併設施設に幼稚園児や小学生が来訪する際には一緒に交流したり、フラワーアレンジメントや音楽等のイベント時には一緒に参加して楽しい時を過ごしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来る限り活かしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出来る限るサービス向上に活かしています。	町会長や婦人会、地域包括支援センター職員が参加して2か月毎に開催されていますが、平日開催のため家族の参加が得られていない状況です。会議ではホームからの様々な報告を行うほか、身体拘束委員会やヒヤリハットの報告もなされています。参加者からは地域の情報を得たり助言をもらい運営に反映させています。	休日に開催される家族会の中での運営推進会議を検討中であり地域包括支援センター職員の理解も得ながら開催したり、家族の知りたいこと等を議題に挙げる等の工夫をすることで参加が得られることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	出来る限り努めています。	運営推進会議の議事録を持参するほか、認定調査の依頼等で出向いた際には、担当者で面談しホームの現状を伝えています。研修会やグループホーム連絡会の案内が届いた際には、日程を調整して参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の委員会の開催や、研修会に参加し身体拘束をしない意識向上日止めしています。	年に一度ホーム内研修を行うほか、毎月身体拘束委員会を開き、現状を把握した上で事例があれば職員間で検討しています。エレベーターはテンキーで管理していますがフロア入口は自由に出入り出来、ユニット間の移動も可能です。また家族の同意を得て夜間のみ転倒防止のためセンサーマットを使用している利用者もいますが、必要性については職員間で検討しています。外に行きたい様子の利用者には寄り添い、外気浴などで気分転換を図っています。	

天神川ケアセンターそよ風(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出来る限り努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出る限り努めています。	職員は利用者から行きたいところや食べたい物の希望を聞いた際には、外食や外出に繋げています。家族の意見は面会時や年に2回開催される家族会で聞くよう努め、遠方の家族には電話で聞いています。また毎月担当者が利用者の様子を写真入りの手紙で報告しています。散歩の要望も多く、行けない日は運動不足にならないようにフロア内を歩行することで対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来る限り機会を設け反映できるよう努めている。	毎月フロア会議を開催し、カンファレンスや業務会議、研修等を行っています。個々の職員がリスクマネジメントやレクリエーション等の役割を持ち、会議では全員の発言を求めています。また年に一度施設長と面談する機会を確保し、日々の中では気になる職員に声を掛け相談に乗るなど、職員が意見や思いを言いやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・資格取得などは、進めている。		

天神川ケアセンターそよ風(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加・施設応援などで、交流を図って向上させていけるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り本人の声に耳を傾け安心していただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされる支援を見極め、サービス利用に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で共に支え合えるような関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に共に支えていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り支援できるように努めている。	近所の友人が利用者の誕生日に訪問したり、時には一緒に外出に出かけることがあります。また家族と自宅に帰ったり、馴染みの美容院や喫茶に出かける際には身支度等を支援しています。友人からの手紙に返事を出す際には、ハガキの準備や投函の支援をしています。昔から歌が好きな利用者には歌番組を録画して日々見てもらったりなど、個々の以前の関わりを大切に支援しています。	

天神川ケアセンターそよ風(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限りの支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を聞き入れられるよう努めている。	入居時には自宅等に出向き、家族から生活歴や病歴、ホームでの生活の希望等を用紙に記入してもらい、関係者からも情報を収集しています。また入居後は日々の関わりの中で言動や表情を見て記録に残し、サービス担当者会議等で話し合い、思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族様に尋ねて把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り現状を把握し暮らしていただけるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケース会議にてスタッフ、時には家族と話し合い、より良い介護計画を作成している。	利用者や家族の希望を基にアセスメントを行い、サービス担当者会議を開催し介護計画を作成しています。通常は担当者が毎月モニタリングを行い、6か月毎に評価、再アセスメントを行っています。変化があればその都度見直しを行い、必要に応じて医師やホームの看護師に事前に意見を聞き、時には鍼灸師も参加してサービス担当者会議を開き現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を共有し活かしている。		

天神川ケアセンターそよ風(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じた柔軟な支援に取り組めるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限り地域資源を活用し豊かな暮らしをしていけるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時家族様に説明・納得していただき適切な医療を受けていただけるよう支援しています。月2回の訪問診療以外、24時間の電話対応や臨時往診の支援を受けています。	以前のかかりつけ医の継続も含めホームの協力医と相談して決めています。現在は全員が協力医を利用しています。協力医は月2回の往診以外にも対応が可能で、急変時は医師に連絡し指示を仰いでいます。日々の健康管理はホームの看護師が担当し、状況に応じて皮膚科の往診や希望に沿って歯科や鍼灸師の往診を受けることができます。専門医を受診する際は、家族が基本に都合の悪い時には職員が同行し、受診後は情報交換しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間電話対応出来、必要に応じて看護を受けることができるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との協力のもと入退院の情報も早く対応出来、安心して治療できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・医療機関の医師・看護師と話し合いを行い協力し合い支援に努めています。	入居時にホームの指針を基に家族に説明し同意を得ています。重度化した際は再度医師から家族に説明し、希望に沿って医師と契約を交わしたうえで職員も交えて最善の方針を検討しています。医師の協力により点滴も可能で看護師が対応し看取りの経験もありますが、家族の意向に添い最後に病院に搬送することもあります。看取りの研修や振り返りも行い、チームで取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や救命講習を受け実践できるよう努めています。		

天神川ケアセンターそよ風(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修や会議にて意識付け地域の方にも運営推進会議などに協力をお願いし協力体制を築いています。	年に2回昼夜を想定して行う避難訓練は、一度は消防署の指導を受けて通報や初期消火、避難誘導を利用者も交えて行っています。自主訓練の際には夜間を想定し同じ内容で行い、水や食料等の備蓄も用意しています。運営推進会議でも話し合い、ホームを一時避難場所に提供することも含め、地域の協力を得られる体制を築いています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会などでも学び、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけが出来るようにしている。	ホーム内で接遇やプライバシーの研修を職員が持ち回りで講師となり行っています。言葉かけは敬語で苗字を基本としていますが、不適切な対応が見られた際にはその都度注意しています。、排泄や入浴介助の際には希望に沿って同性介助で対応したりいったん退室して様子を見るなど、羞恥心にも配慮した支援を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分ではありませんが、自己決定が出来るような支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分とは言えませんが、その人らしい過ごし方が出来るよう希望も尋ね支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限りの支援に勤めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを訪ね、出来ることは一緒に調理したり片付けたりしています。	利用者に希望を聞きながら職員が献立を決めて食材を注文し調理しています。利用者は職員と一緒に調理や盛り付け、後片付け等を行い、介助をしながら同じ食卓について一緒に食事をしています。時にはレストランや回転寿司屋で好きなものを選ぶこともあります。行事食として鍋や焼肉、パンバイキングをしたり、おやつにホットケーキやぜんざいを作り利用者と共に楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分とは言えませんが、個々に合った食事を提供しています。		

天神川ケアセンターそよ風(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の協力のもと、本人の状態に応じた口腔ケアを支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ここに合った排泄習慣を理解し出来る限り自立出来るよう支援しています。	毎日のチェック表で個々のパターンを把握して、立位が取れる利用者は日中、誘導や介助によりトイレで排泄をしています。また野菜や水分を多く摂取してもらうことで便通がよくなり、気持ちよく過ごせるよう支援しています。布の下着の方もいて職員はバットの大きさや誘導時間や感覚を検討し、重度化が進む中でも現状維持を目標として支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や飲み物に工夫し個々に合った予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の制限はありますが、入浴を楽しんでいただけるよう個々に合った支援をしています。	どの利用者も3日に一度は入浴出来る様、10時から16時迄の希望する時間帯に支援しています。介助が不要な方は毎日でも入浴が可能です。湯は個々に入れ替えて入浴剤を使用し、時にはゆずやバラを浮かべて楽しんでいます。拒否が見られる利用者には時間や職員を変更して誘導し無理のない入浴に繋げています。浴室では歌を歌ったり、好みの湯加減でゆっくり入ってもらうなど、楽しんで入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り安心して休んでいただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬を理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に楽しみや気分転換できるように、出来る限りの支援をしています。		

天神川ケアセンターそよ風(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様の協力もあり、出来る限りの支援に努めています。	気候が良い時期は公園まで散歩しています。行事として自治会の敬老会や花見会、外食に出かけています。また個別で薬局やコンビニに買い物に出かけたり、家族の協力で馴染みの美容院へ出かけたり買い物や外食を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて買い物に行き、自身で支払いをされるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限りの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるような飾りをしたり、椅子やソファを置き、くつろいでいただけるよう工夫しています。	エントランスに絵画や手芸、習字など入居者の以前の作品を飾り、ソファやいすを各所に置いて寛いだり一人になれるスペースを確保しています。観葉植物や生花、リビングには毎月一緒に作成した貼り絵やタペストリーを飾り、季節を感じてもらっています。毎日の清掃や換気を徹底し、空調や空気清浄機、加湿器等で清潔保持に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、好みのもをを相談して置いていただき居心地よく過ごしていただいています。	入居にあたって職員は家族に利用者の使い慣れた物を持参するよう伝えてあります。利用者はタンスやテレビ、時計、絵画、置物、家族の写真等を持参し、使い勝手の良い布団で寝起きしています。居室に地図を飾って行ったことのある場所を確認したり、入浴後に居室で化粧品を使用するなど、寛いで過ごせる空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り安全かつ自立した生活が送れるよう工夫しています。		